

北九州エアターミナル株式会社

北九州エアターミナル株式会社

I 法人の概要（平成 25 年 7 月 1 日現在）

1 所在地

北九州市小倉南区空港北町 6 番

2 設立年月日

平成元年 5 月 1 日

3 代表者

代表取締役社長 片山 憲一

4 資本金

3,524,000 千円

5 北九州市の出資金

1,000,000 千円（出資の割合 28.4%）

6 役職員数

	人 数			
	合 計	うち本市からの派遣	うち本市退職者	うちその他
役 員	13 人	0 人	1 人	12 人
常 勤	4 人	0 人	1 人	3 人
非常勤	9 人	0 人	0 人	9 人
社 員	17 人	0 人	2 人	15 人

II 平成 24 年度事業実績

1 航空旅客

今期の日本経済は長引くデフレ、円高、海外経済の減速等により、景気の先行きに不透明感が見られたが、年明け以降は、政府の経済政策や海外経済の緩やかな回復により円安が進み、大企業を中心に改善の兆しが見られた。

航空業界においては、本邦LCCの本格的な参入にともない新たな航空需要が生まれるとともに、日本航空が再上場を果たす等、安定的に推移した。

この間、国内線については、行政や関係団体等と緊密な連携のもと、既存路線のPR活動等による旅客増に努めるとともに、航空会社に対しては路線の新設等の働きかけを行った。

また、国際線については、7月12日よりスターフライヤーの韓国（釜山）路線が開設され、行政や関係団体等と緊密な連携のもと、PRや集客活動に取り組むとともに、海外の航空会社に対して新規航空路線の誘致活動に取り組んだ。

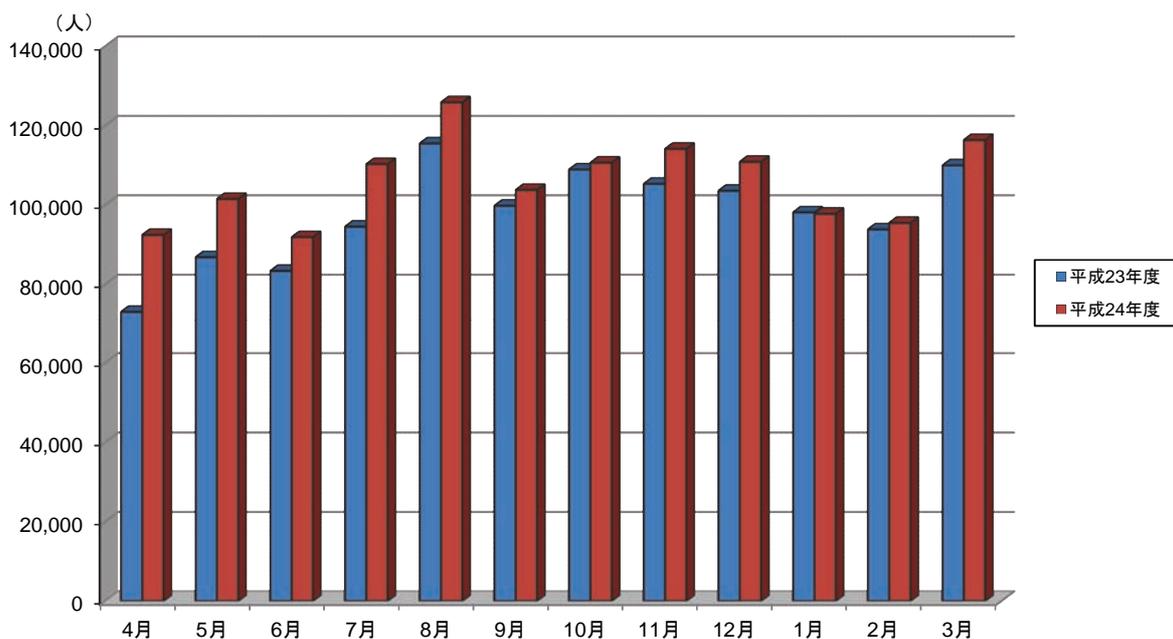
このような状況のもと、当北九州空港においては、国内線では、東京（羽田）路線の年間乗降客数は約1,171千人（前期比103.6%）で約41千人の増、夏季運航した沖縄（那覇）路線の年間乗降客数は約3千人となった。

また、国際線は、韓国（仁川）路線が4月25日から運休となったが、スターフライヤーの韓国（釜山）路線就航により、国際定期路線の年間乗降客数は約86千人（前期比259.5%）で約53千人の増となった。

チャーター便は、ソウル、台北等に運航し、約11千人（前期比125.9%）の利用があった。

この結果、年間乗降客数は約1,271千人（前期比108.4%）となった。

【国内・国際線旅客数（合計）の推移】



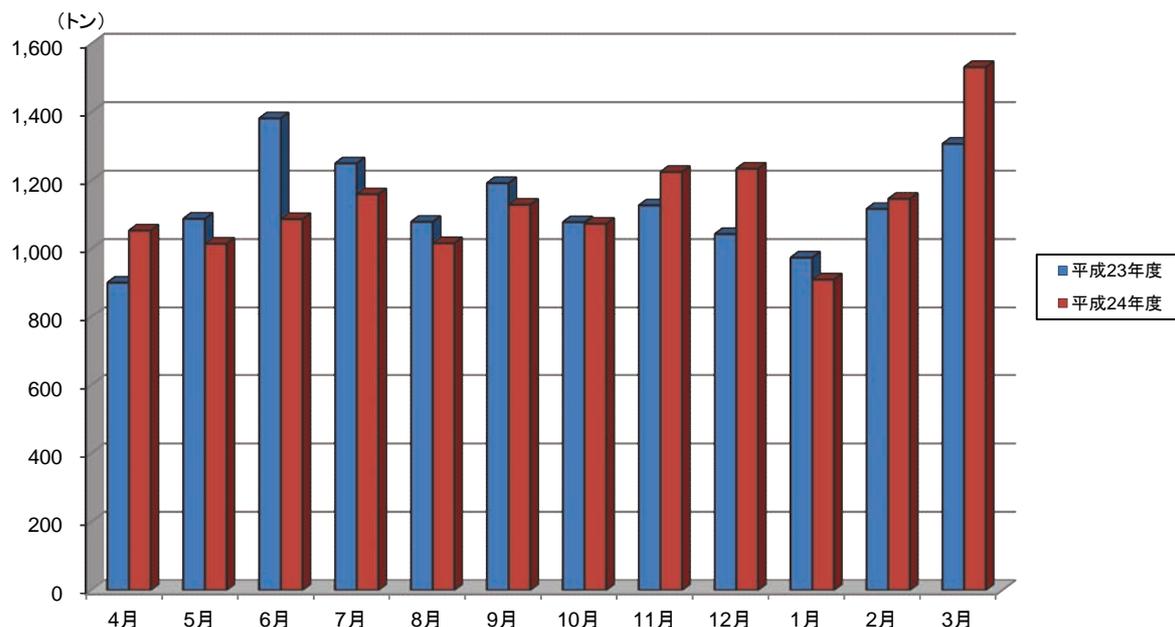
2 航空貨物

北九州空港の24時間運用の貨物拠点空港に向けて、行政による航空貨物重量助成制度の支援等により、新規航空会社の誘致や国際貨物チャーター便の誘致活動を行った。

国内航空貨物は、年間搭載重量が約12千トン（前期比107.8%）、国際航空貨物は、カナダやオーストラリアからの大型貨物専用機が20便に増加したことに加え、日本貨物航空の仁川ー成田間の定期便が9便臨時寄港したものの、9月から国際航空貨物定期便（上海路線）が運休したことが影響し、約1千トン（前期比62.7%）で約800トン減少した。

これらのことにより、航空貨物取扱量は国内・国際合計では開港以来最大となった。

【国内・国際線貨物取扱量（合計）の推移】

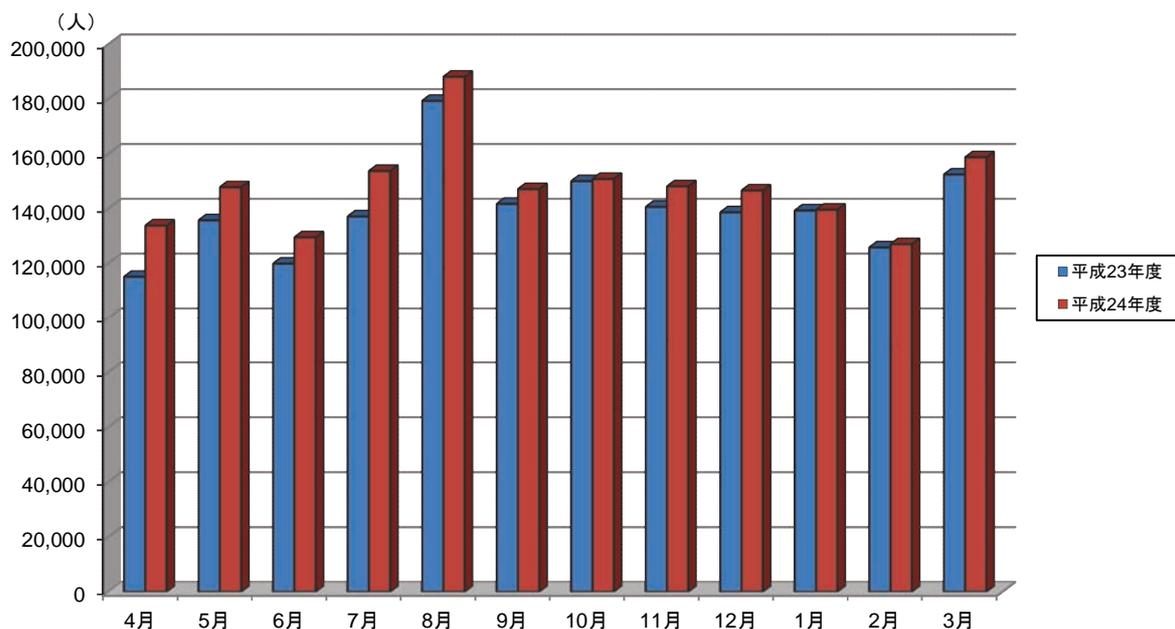


3 旅客ターミナルビル来館者

航空旅客に対して館内での快適な一時を過ごしていただくとともに、航空旅客以外の来館者の集客を図るため、空港周辺の自治体をはじめ、関係団体や関係者に対して、館内での作品展示やイベント等の開催を呼びかけるとともに、当社主催の四季折々を感じさせる多彩なイベントや作品展示会等を実施し、旅客ターミナルビルの「賑わいづくり」に取り組んだ。

この結果、年間の旅客ターミナルビル来館者は、約 1,771 千人（前期比 105.7%）となった。

【旅客ターミナルビル来館者数の推移】



【イベント実施状況】

開催時期	主 な イ ベ ン ト 名
4月	北九州空港近隣の桜 写真展、仁美・安永たけし 二人展 しものせき海峡まつりパネル展、海からの贈りもの～タペストリー展～
5月	ふれあい動物園、ふれあい水族館 空港スケッチ大会、プチフリーマーケット、ふわふわ遊具 平尾台野草写真展「山野草の輝き」 「俺たち魚部」展 北九州市の貴重な自然～紫川と響灘ビオトープ～ 宮地嶽神社 菖蒲まつりPR展示
6月	フラワーアレンジメント、幼稚園児による七夕飾り、 坂本潤一写真展 美インプレッション
7月	小倉祇園太鼓パネル展、戸畑祇園大山笠パネル展、 BOATRACE 若松「女子王座決定戦」PR イベント
7月～8月	ナイトトリップ in 北九州空港
8月	国際車椅子バスケットボール大会感動の写真展、夏休みカブト虫ランド
9月	「北九州空港でJALの飛行機の絵を書こう」作品展示 名月とジャズライブの夕べ
10月	北九州空港まつり、ゆくはしの遺産絵画展、北九州空港エアポートライブ ワインとジャズの夕べ、沼楽・春秋太鼓奉納
11月	北九州空港菊花展、新池坊作品発表会、北海道物産展 in 北九州空港 食の競演 in 北九州空港、「池坊」華風会いけばな展示 美少女イラスト作家「しいたけ」作品展
12月	幼稚園児によるクリスマス点灯式 クリスマスコンサート、しの武作品展
1月	元旦 ほうじ茶振る舞い、新春鏡開き ぜんざい振る舞い
1月～2月	バレンタインデーイベント、犬の写真展
2月	猫の写真展、ふぐ雑炊振る舞い
3月	開港7周年記念イベント
通 年	新池坊いけばな展示、豊前街道新鮮市

4 テナント売上増に向けた取り組み

C S 研修、入店者研修、釜山線就航に合わせた韓国語研修等、各種研修を実施し、テナント従業員の能力向上を図るとともに、販売コンテストを実施し、テナント従業員の販売意欲の向上を図った。

また、テナント会店長会議において、航空会社の利用状況や、チャーター便の運航状況等を共有し、販売効率を高める努力を行った。

併せて、韓国人利用者向けに飲食店のメニューや売店での商品紹介をハングルで作成し、韓国人利用者が購入しやすい環境を作った。

さらに、テナント会と共同で、「元旦 ほうじ茶振る舞い」、「新春鏡開き ぜんざい振る舞い」、「ふぐ雑炊振る舞い」等を開催し、お客様への日頃の感謝を込めたイベントを実施した。

5 施設整備等

航空旅客の需要増や新規路線、新規航空会社の就航等に的確に対応していくため、前年度から工事を始めた旅客ターミナルビル固定橋等増築工事が6月に竣工し、7月から供用を開始した。

また、スターフライヤーの事業規模拡大に伴い、事務所が狭隘となったため、スターフライヤー事務所棟等増築工事を開始した。

6 経営状況

当社の経営状況については、当期売上高は、旅客数の増加に伴い設備使用料等の収入が増加したため、約754百万円で、前期と比較し、約6百万円増加した。

売上原価、販売費及び一般管理費の合計は、管理経費の削減や節電対策などに取り組み、約678百万円で、前期と比較し約6百万円減少した。

また営業外収益は約51百万円、営業外費用は約13百万円となった。

以上の結果、税引前当期純利益は約92百万円で、当期純利益は約55百万円となった。

Ⅲ 平成24年度決算

1 貸借対照表（総括表）

平成25年3月31日現在（単位：円）

資 産 の 部		負 債 の 部	
科 目	金 額	科 目	金 額
【流動資産】	518,235,108	【流動負債】	424,189,462
現金・預金	440,700,020	買掛金	200,363
商品	229,276	未払金	167,595,818
貯蔵品	526,187	一年以内返済長期借入金	216,562,000
前払費用	6,170,665	リース債務	1,782,900
未収入金	67,218,908	未払費用	2,521,100
繰延税金資産	3,390,052	未払法人税等	4,327,900
		未払消費税等	4,552,600
		前受金	22,419,517
		預り金	730,605
		仮受金	598,659
【固定資産】	4,388,875,553	賞与引当金	2,898,000
(有形固定資産)	4,157,721,327	【固定負債】	610,923,958
建物	3,906,954,189	長期借入金	433,066,000
構築物	68,358,291	退職給付引当金	4,695,672
工具器具備品	8,675,841	預り敷金	29,177,400
機械装置	768,979	預り保証金	59,089,800
車両運搬具	1,123,427	長期リース債務	3,554,565
リース資産	4,988,000	資産除去債務	81,340,521
建設仮勘定	166,852,600		
(無形固定資産)	14,836,947	負債合計	1,035,113,420
電話加入権	124,984	純 資 産 の 部	
水道施設利用権	1,996,875	【株主資本】	3,948,108,657
供給施設利用権	12,715,088	資本金	3,524,000,000
(投資その他の資産)	216,317,279	利益剰余金	424,108,657
投資有価証券	192,677,700	その他利益剰余金	424,108,657
出資金	300,000	繰越利益剰余金	424,108,657
長期繰延税金資産	23,339,579	【評価・換算差額等】	▲ 76,111,416
		その他有価証券評価差額金	▲ 76,111,416
		純資産合計	3,871,997,241
資産合計	4,907,110,661	負債・純資産合計	4,907,110,661

2 損益計算書(総括表)

自 平成 24 年 4 月 1 日

至 平成 25 年 3 月 31 日 (単位:円)

科 目	金 額	
I 売上高		753,847,735
売上高	14,749,735	
家賃収入	282,660,228	
管理費収入	182,008,005	
設備使用料収入	250,963,884	
広告料収入	23,465,883	
II 売上原価		2,493,674
売上総利益		751,354,061
III 販売費及び一般管理費		675,733,670
営業利益		75,620,391
IV 営業外収益		51,067,494
受取利息	536,171	
受取配当金	12,000	
損害保険手数料収入	50,939	
雑収入	50,468,384	
V 営業外費用		13,341,176
支払利息	13,268,050	
雑損失	73,126	
経常利益		113,346,709
VI 特別利益		10,616,358
補助金	10,616,358	
VII 特別損失		31,734,666
固定資産除却損	25,894,667	
車両運搬具圧縮損	5,839,999	
税引前当期純利益		92,228,401
法人税、住民税及び事業税		27,516,802
法人税等調整額		9,575,648
当期純利益		55,135,951

IV 平成25年度事業計画

北九州空港が 24 時間運用の海上空港の特色を活かし、北九州地域の九州・アジアの空の玄関口として、人・モノ・サービスの流通拠点として、より一層飛躍・発展するように取り組んでいく。

1 航空旅客

国内線については、行政や団体と連携をとり、便数の増大、路線の拡大を目指し、関係機関への積極的な要望活動を行う。また今年、北九州市が市制 50 周年を迎え様々な記念事業が開催されることから、北九州市等と連携し、北九州市を訪れる航空旅客の取り込みを行う。

国際線については、行政や団体と連携し、韓国（釜山）線利用者の増加に向け、更なる認知度向上のための PR 活動、旅行代理店への様々な企画商品の作成等の働きかけを行う。また、スターフライヤーが予定しているグアムチャーター便については、航空会社と連携し必要な施設整備を行うとともに、行政や団体と連携をとり積極的な PR 活動を行い、旅客増に努める。

2 航空貨物

行政や団体と連携し、5 月 11 日から就航する日本貨物航空の国際航空貨物定期便の貨物量安定化を支援するとともに、滑走路 3,000m への延伸実現に向け国への要望活動等を行う。

3 ターミナルビル来館者

四季折々を感じる多彩なイベントや展示会等を実施し、航空旅客以外の集客を図るとともに、小学校の社会科見学や地域関係者の見学会等、団体の施設見学を取り込む体制の検討を行う。

4 テナント売上増に向けた取り組み

テナント会と連携し、売上げコンテストや CS 研修を実施し、売上高の向上を図る。

5 整備計画

旅客ターミナルビル内の椅子やカーペット等の備品のリニューアル、館内植栽の検討を行い、利用者に快適な施設を提供するための整備を行う。また、LED 化や人感センサーの設置等を実施し、省エネ対策に取り組む。併せて、今後大規模修繕が見込まれるターミナルビルの長期修繕計画の策定を進める。

建設中のスターフライヤー事務所については、安価に且つ早期に竣工し、スターフライヤー社の安定経営に寄与する。

6 空港経営改革へ対応

空港の経営改革の目的が地域活性化にあるということを踏まえ、関係機関と十分連携しながら、研究、検討を行う。

V 平成 25 年度予算

1 収支予算書(総括表)

自 平成25年 4月 1日

至 平成26年 3月31日 (単位：千円)

収 入	営業収入	売上高	15,000
		家賃収入	303,000
		管理費収入	182,000
		設備使用料収入	257,000
		広告料収入	23,000
	小 計	780,000	
	営業外収入	雑収入等	25,000
		小 計	25,000
	合 計		805,000
	支 出	営業費用	売上原価
人件費			100,000
一般管理費			47,000
減価償却費			213,000
水道光熱費			81,000
租税公課			48,000
地代			30,000
管理委託費			158,000
小 計		680,000	
営業外費用		支払利息等	10,000
小 計	10,000		
合 計		690,000	
収 入 - 支 出		115,000	

VI 役員名簿等

1 役員名簿

平成 25 年 7 月 1 日現在

役職名	氏名	備考
代表取締役社長	片山 憲一	
代表取締役専務	奥 久志	
常務取締役	今村 裕明	
取締役	斉藤 淳	日産自動車九州株式会社 取締役執行役員
〃	石丸 靖彦	TOTO株式会社 総務部長
〃	戸上 勝喜	九州電力株式会社 執行役員 北九州支社長
〃	前川 義広	西鉄バス北九州株式会社 代表取締役社長
〃	櫻谷 健治	苅田町 副町長
〃	船越 弘文	新日鐵住金株式会社 八幡製鐵所 総務部長
〃	佐藤 宗之	ANAホールディングス株式会社 グループ事業推進部主席部員
常勤監査役	浦野 繁樹	
監査役	川本 惣一	株式会社西日本シティ銀行 取締役専務執行役員 北九州総本部長
〃	松本 英樹	行橋市 総務部長

2 市との特命随意契約の状況（平成 24 年度実績）

市からの特命随意契約による委託の状況			左のうち外郭団体からの再委託の状況				
委託業務名	委託金額 (千円)	特命理由	再委託の 業務内容	委託 金額 (千円)	契約 相手	契約 方法	特命随意契約の 場合その理由
「北九州空港 集客・路線誘 致強化事業」 業務委託	12,978	①北九州空港旅客・貨物ターミナルビルの管理・運営会社であり、旅行業界、航空業界、地元企業、行政機関等で構成する「北九州空港利用促進連絡会」の代表として、北九州空港の利用促進事業の中心的な役割を果たしている。 ②「北九州空港利用促進連絡会」における長年の活動を通じて、各関係団体ともネットワークを構築しており、北九州空港の集客や新規路線誘致に関するPR活動や情報収集等を幅広く円滑に実施することができる。 ③北九州空港の集客及び新規路線誘致について、全体を総合調整しながら事業を実施できるのは、当社のほかない。					再委託なし
合計	12,978		合計	0			